

令和 6 年 5 月 24 日現在

機関番号：11101

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19K11269

研究課題名（和文）看護と介護の協働による認知症高齢者の心不全の疾病・生活管理のためのマニュアル作成

研究課題名（英文）Creating a manual for disease and daily life management of heart failure in elderly people with dementia through collaboration between nursing and caregiving

研究代表者

大津 美香 (Otsu, Haruka)

弘前大学・保健学研究科・教授

研究者番号：10382384

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、看護職と介護職の連携・協働により認知症高齢者の心不全の悪化による再入院を予防するために有用な疾病・日常生活管理マニュアルを作成することであった。先行研究を基にマニュアル原案の枠組みを作成した。また、介護職と看護職との連携の実態・課題・効果的なかかわり方等の調査を行い、成果をマニュアルに加えた。医療・介護の専門家の内容的妥当性の評価を得て、介護保険施設の看護職及び介護職がマニュアル暫定版を認知症高齢者に実施した。その結果、職員の知識の状態と実践状況が介入開始3ヵ月時に有意に改善し、また、認知症高齢者の心不全の悪化の早期発見・受診の対応に有効であった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究において作成したマニュアルは介護保険施設の職員による実践を通して、認知症高齢者の心不全の悪化時の早期発見・受診の対応力向上と再入院の予防につながる可能性があることが推察された。我が国の認知症施策である認知症施策推進大綱では認知症の対応力向上に向けて医療・介護従事者に対する研修受講を促進してきた。本研究では心不全という1つの身体合併症をもつ認知症高齢者における心不全の重症化予防としての早期発見・早期対応に有効であり、医療・介護従事者の認知症対応力向上に寄与する資料となり得るものと考えられた。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to create a disease and daily life management manual that would be useful in preventing readmissions due to worsening of chronic heart failure in elderly patients with dementia through collaboration between nursing and care staff. A framework for the draft manual was created based on previous research. In addition, I conducted a survey on the actual state of cooperation between nursing and care staff, issues, and ways to effectively interact with them, and added the results to the manual. After the content validity was evaluated, nursing and care staff administered the tentative version of the manual to elderly people with dementia. As a result, the state of knowledge and practice of the staff significantly improved three months after the start of the intervention. It was also effective in early detection of deterioration of heart failure in elderly people with dementia and prompting them to seek medical attention.

研究分野：高齢者看護学

キーワード：認知症 心不全 多職種連携 マニュアル 生活管理

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

在院日数の短縮化により、身体疾患管理が必要な認知症高齢者は退院後、介護施設への入所が増加している現況から、医療(看護)と介護の専門職が協働的に医療問題のある認知症高齢者の身体疾患の悪化を予防することが重要である。再入院を繰り返す認知症のある心不全高齢者の社会的背景として、独居に次いで介護老人保健施設及び特別養護老人ホームも挙げられていた¹⁾。そのため、本研究では介護施設におけるケアの標準化と質の向上により、心不全の悪化から認知症高齢者の再入院を予防することを目指す。

2. 研究の目的

全国の介護保険施設を対象に行った調査²⁾³⁾では、施設での認知症高齢者の心不全の疾病・日常生活管理が適切に行われていないと認識する看護職員は知識不足による援助の不十分さを感じ、ケアに役立てるためのマニュアルを7割以上が希望していた。しかし、認知症高齢者の心不全の日常生活管理については、具体的なケア内容が示された手引きなどが見当たらない状況にあった。そのため、本研究では、介護保険施設の看護職員と介護職員が認知症高齢者の心不全の悪化予防に向けて日常生活管理を行うためのマニュアルを作成し、その有効性を検証することとした。

3. 研究の方法

(1) マニュアル作成のプロセス：以下の手順により、マニュアルを完成させた。

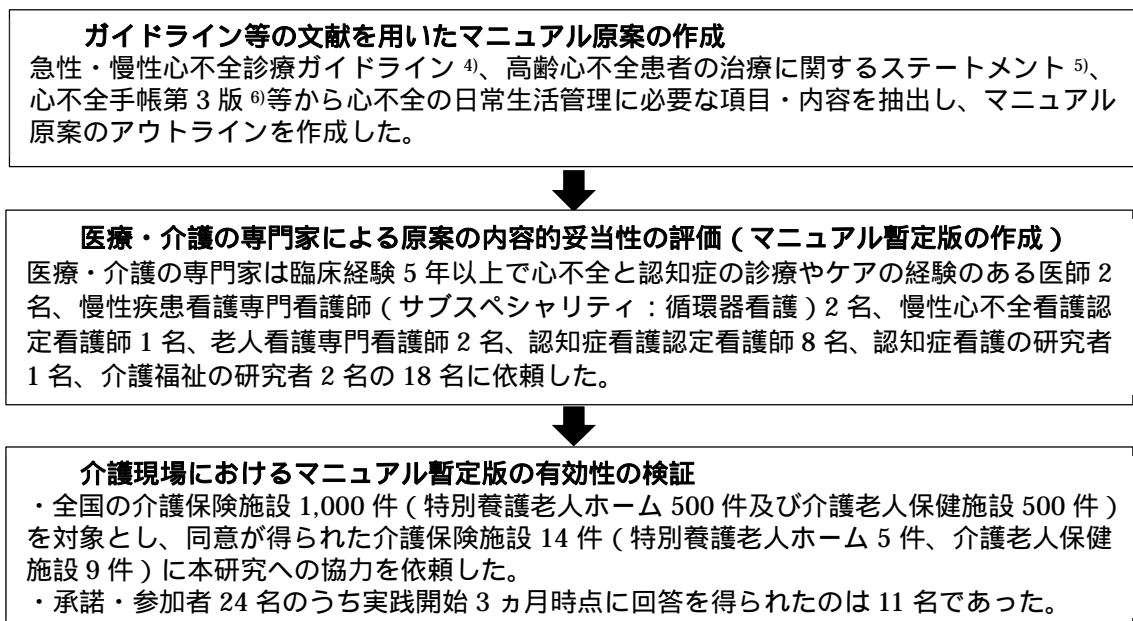


図1 マニュアル作成のプロセス

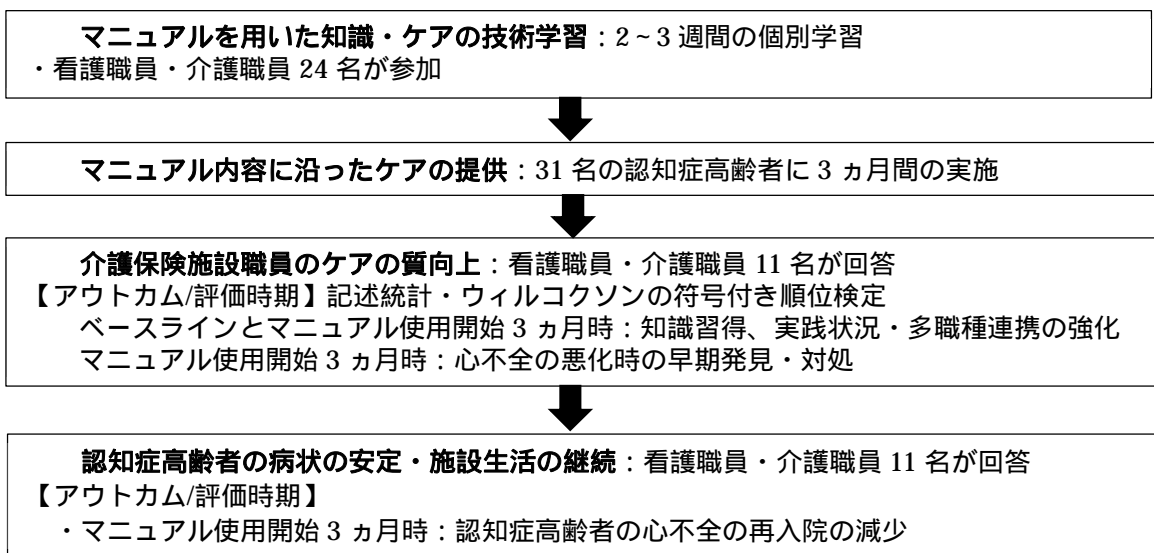


図2 マニュアル暫定版の実施プロセスと目標

4. 研究成果⁷⁾

(1) 研究第1段階「ガイドライン等の文献を用いたマニュアル原案の作成」

内容は心不全の病態・症状・悪化要因、心不全の治療・服薬管理、非薬物治療（塩分・栄養・水分管理、嗜好品、感染予防、運動療法・身体活動援助、入浴援助・清潔ケア、排泄援助）、心不全の悪化徴候と対応、看護職と介護職の協働的対応等となった。アウトラインの内容に沿って、心不全をもつ認知症高齢者の日常生活管理の特徴と認知症高齢者の心不全の悪化予防に向けたケアに関する内容及び多職種連携に必要な内容が抽出できる文献を引用・参考にして、マニュアル原案を作成した。

(2) 研究第2段階「医療・介護の専門家による原案の内容的妥当性の評価（マニュアル暫定版の作成）」

専門家の評価結果を基に完成したマニュアル暫定版は総ページ数が25頁、知識編と実践編から成る2部構成となった。前者は心不全の症状や治療等（心不全の病態・症状・悪化要因、心不全の治療・服薬管理）の概要について知識を得るための内容となった。後者は看護職員と介護職員が協働的に認知症高齢者の心不全の悪化を予防するための具体的な日常生活管理の方法と心不全の悪化時の対応に関する具体的な援助内容となった。

職種にかかわらず、わかりやすいマニュアルとなるようイラストを適宜用いたり、医療用語の解説を加える等の工夫を行った。また、援助ポイントが強調されるようチェックリスト式とし、実践に役立てられるようにした。

(3) 研究第3段階「介護現場におけるマニュアル暫定版の有効性の検証」

看護職員及び介護職員にみられる有効性（ケアの質評価）

表1にマニュアル内容の実践開始前後のアウトカムの結果を示す。知識の状態と実践状況が実践開始3ヵ月時において有意に改善した（ $p < 0.05$ ）。職種間連携の状況については、実践前後で有意差が認められなかったが、3.0点の上昇がみられていた。心不全の悪化時の早期発見・受診の対応状況にみられた変化の回答結果は「とても」2名、「まあ」7名、「あまり」2名であった。

表1 マニュアル内容の実践開始前後のアウトカムの結果 n=11

	中央値（4分位範囲）			p値
	得点範囲	ベースライン	3ヵ月	
知識の状態	18-72点	38.0 (10.0)	58.0 (12.0)	0.005*
実践状況	18-72点	45.0 (10.0)	48.0 (7.0)	0.016*
職種間連携の状況	5-20点	15.0 (9.0)	18.0 (8.0)	0.574

Wilcoxon signed rank test * $p < 0.05$

心不全のある認知症高齢者にみられる有効性

1年前の同時期と比較した再入院の頻度について、「減少した」4名、「変化がなかった」7名、「増加した」0名の回答が得られた。

看護職員及び介護職員によるマニュアルの有用性に関する評価

表2にマニュアル内容の実践開始後3ヵ月時の看護職員及び介護職員によるマニュアルの有用性に関する評価結果を示す。ケアの容易性は概ね「とてもよかった」「まあよかった」、活用程度は「とても活用できた」「まあ活用できた」、満足度は「とても満足した」「まあ満足した」の回答であった。実践できた自信は「まあある」8名が回答した一方で、「あまりない」が3名あり、「あまりない」3名のうち、「新型コロナウイルス感染症のクラスターと時期が重なってしまい、マニュアルに沿った内容を実践できなかった」1名、「深く考えてこなかった知識としてプラスになったが、優先順位を考慮して取り組む余裕がなかった」1名の自由回答がみられた。

表2 看護職員及び介護職員によるマニュアルの有用性に関する評価（回答数） n=11

	とても	まあ	あまり	全く
ケアの容易性	2	9	0	0
活用程度	5	5	1	0
満足度	4	7	0	0
実践できた自信	0	8	3	0
今後の援助への活用可能性	5	5	1	0
参考になったという認識	9	2	0	0

分量は概ね「ちょうどよかった」、内容の難易度は概ね「とてもわかりやすかった」「まあわかりやすかった」5名の回答であった。今後の援助への活用可能性は「とても活用できそう」5名、「まあ活用できそう」であったが、「あまり活用できそうにない」が1名から回答があり、その

理由として、介護職員 1 名から「活用価値は高いが、継続と定着にはハードルが低い」の記載があった。参考になったという認識は「とても参考になった」「まあ参考になった」の回答であった。

マニュアルの良かった点を表 3 に、改善すべき点を表 4 に、マニュアルや研究に対する意見の自由記述内容については表 5 に示す。概ね、読みやすく、理解しやすかったという意見であったが、マニュアルを一読して即実践に結びつけることには困難さがあるという意見もあった。

表 3 マニュアルのよかった点 n=11

【看護職員】
・看護の基本を再認識できた
・どの職種でも理解しやすかった
・知識編と実践編に分かれていて、読みやすかった
・実践編では、それぞれの項目で認知症の人の傾向から、様々なケースに対しての対応の仕方が挙げられていて、活用しやすかった
・イラストがわかりやすく、見やすかった
・項目ごとに細かな説明があり、事例まで書かれており、参考になった
【介護職員】
・基礎的なことがわかりやすく説明されており、理解しやすかった
・わかりやすくまとめてあり、読みやすかった
・場面ごとの注意するポイントや観察のポイントなどがしっかり書かれていたため、参考にしやすかった
・問題提起として、意識を高めるきっかけになったと思う
・項目別に分類されていたため、理解しやすかった

表 4 マニュアルの改善すべき点 n=4

【看護職員】
・介護職員には少し難しいかもしれない
・チェック項目で、赤い文字で強調部分をつくるのはどうか
【介護職員】
・マニュアル p.5 上から 4 行目「心臓内に血栓できやすくなり」とあるが、「血栓が」のほう読みやすい(脱字に関する指摘)
・項目がやや多かった

表 5 マニュアルや研究に対する意見 n=7

【看護職員】
・他職種との連携の大切さを学んだ
・調査期間に新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生してしまい、心不全や呼吸不全が増えた
・定年退職までもう少しだが、感染症対策や看取りなども含めて、勉強したいと思うようになった。ありがたかった
【介護職員】
・特になかった
・マニュアル作成や研究これからも頑張ってください
・一読して即実践に移せる人はそれほどいないのが現実ではないか。仮に 1 名が実行しても、チーム全体への浸透・定着には困難さがある。介護現場では意識が高い人ばかりが働いているわけではないことが要因に思う
・心不全の疾病管理や日常生活管理をしていくうえでの注意点などを改めて見直すことができた

本研究において作成したマニュアルは介護保険施設の職員による実践を通して、認知症高齢者の心不全の悪化時の早期発見・受診の対応力の向上と再入院の予防につながる可能性があることが推察された。その一方で、多くの施設職員の実践につなげられるよう今後は、多忙な介護現場においても短期間で学習効率の高い教材を開発する必要性が示唆された。

<引用文献>

- 1) 大津美香, 森山美知子, 真茅みゆき: 認知症を有する高齢慢性心不全患者の再入院の要因と在宅療養に向けた疾病管理の実態. 日本循環器看護学会誌, 8(2): 35-46, 2013.
- 2) 大津美香: 介護老人福祉施設において認知症を合併する高齢慢性心不全療養者に対して実施されている疾病管理の支援の実態. 日本循環器看護学会誌, 9(1): 109-116, 2013.
- 3) 大津美香: 介護老人保健施設の認知症を合併する高齢慢性心不全療養者の疾病管理. 保健科学研究, 5: 105-115, 2015.
- 4) 日本循環器学会 / 日本心不全学会合同ガイドライン: 2021年 JCS/JHFS ガイドライン フォーカスアップデート版 急性・慢性心不全診療. https://www.j-circ.or.jp/cms/wp-content/uploads/2021/03/JCS2021_Tsutsui.pdf
- 5) 日本心不全学会ガイドライン委員会: 高齢心不全患者の 治療に関するステートメント. http://www.asas.or.jp/jhfs/pdf/Statement_HeartFailure1.pdf
- 6) 一般社団法人日本心不全学会: 心不全手帳第3版. http://www.asas.or.jp/jhfs/topics/files/shinhuzentecho/techo3_book1.pdf
- 7) 大津美香, 中村典雄, 成田秀貴, 他: 認知症高齢者の心不全の悪化予防に向けて看護職員と介護職員が日常生活管理を行うためのマニュアルの有効性の検証. 保健科学研究, 14(2): 37-44, 2024.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計23件（うち査読付論文 15件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 大津美香, 瀬川莉子, 中村ひかる, 三上諒弓, 井上幸香, 三浦美環, 成田秀貴, 安永知衣里	4. 巻 24巻5号
2. 論文標題 介護保険施設の認知症高齢者の心不全の悪化予防のための日常生活管理 看護職員と介護職員が連携において日頃感じていること	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 地域ケアリング	6. 最初と最後の頁 41-46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大津美香, 原子教子	4. 巻 24巻6号
2. 論文標題 身体疾患をもつ認知症高齢者に対する最も対応困難な日常生活援助内容の検討 介護職員の経験年数との関係から	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 地域ケアリング	6. 最初と最後の頁 42-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大津美香, 井上幸香, 三上諒弓, 中村ひかる, 瀬川莉子, 三浦美環, 成田秀貴, 安永知衣里, 九島千瑛	4. 巻 5巻8号
2. 論文標題 認知症高齢者の心不全の日常生活管理における介護職員のストレスに関する研究	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Precision Medicine	6. 最初と最後の頁 68-73
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大津美香, 中村ひかる, 瀬川莉子, 三上諒弓, 井上幸香, 三浦美環, 成田秀貴, 安永知衣里, 九島千瑛	4. 巻 5巻11号
2. 論文標題 認知症高齢者の心不全の日常生活管理における看護職員のストレスに関する研究	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Precision Medicine	6. 最初と最後の頁 60-65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大津美香,三上諒弓,井上幸香,瀬川莉子,中村ひかる,三浦美環,成田秀貴,安永知衣里,九島千瑛	4. 巻 24巻13号
2. 論文標題 介護保険施設の介護職員が認識する看護職員との連携による心不全のある認知症高齢者の日常生活管理の実践状況	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 地域ケアリング	6. 最初と最後の頁 49-53
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大津美香,瀬川莉子,中村ひかる,井上幸香,三上諒弓,三浦美環,成田秀貴,安永知衣里,九島千瑛	4. 巻 5巻13号
2. 論文標題 介護保険施設の介護職員との連携における看護職員の認知症高齢者の心不全の日常生活管理の実践状況	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Precision Medicine	6. 最初と最後の頁 46-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大津美香,井上幸香,三上諒弓,中村ひかる,瀬川莉子	4. 巻 37巻14号
2. 論文標題 心不全をもつ認知症高齢者の日常生活援助に際して看護職員と介護職員に生じるコンフリクトへの効果的対処 看護職員を対象とした調査結果から	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 BiO Clinica	6. 最初と最後の頁 45-47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大津美香,中村ひかる,瀬川莉子,三上諒弓,井上幸香	4. 巻 25巻2号
2. 論文標題 心不全をもつ認知症高齢者の日常生活援助時に介護職員と看護職員に生じるコンフリクトへの効果的対処 介護職員を対象とした調査結果から	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 地域ケアリング	6. 最初と最後の頁 43-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大津美香, 瀬川莉子, 中村ひかる, 三上諒弓, 井上幸香	4. 巻 38巻2号
2. 論文標題 心不全をもつ認知症高齢者の日常生活援助に際して介護職員が認識する看護職員との連携において生じるコンフリクトへの非効果的対処	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 BiO Clinica	6. 最初と最後の頁 54-56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大津美香, 井上幸香, 三上諒弓, 瀬川莉子, 中村ひかる	4. 巻 6巻2号
2. 論文標題 心不全をもつ認知症高齢者の日常生活援助において介護職員との間に生じたコンフリクトへの非効果的対処 看護職員を対象とした調査結果から	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Precision Medicine	6. 最初と最後の頁 56-58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大津美香	4. 巻 47巻12号
2. 論文標題 認知症高齢者の介護職員によるケア : 心不全の疾病・生活管理のマニュアル作成に向けて	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Medical Science Digest	6. 最初と最後の頁 527-530
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大津美香	4. 巻 23巻12号
2. 論文標題 身体疾患を複数抱える高齢者の日常生活援助 - 施設の種類による介護職員の対応困難感と不安 -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 地域ケアリング	6. 最初と最後の頁 50-52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大津美香	4. 巻 24巻2号
2. 論文標題 介護保険施設の介護職員が認識する高齢者の身体疾患の悪化予防のための知識と日常生活援助の状況	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 地域ケアリング	6. 最初と最後の頁 52-56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大津美香, 成田秀貴, 工藤麻理奈	4. 巻 22巻14号
2. 論文標題 介護施設の介護職員が高齢者の急変時対応に抱く困難と不安 看護と介護の協働による認知症高齢者の心不全の疾病・生活管理のためのマニュアル作成に向けての基礎調査	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 地域ケアリング	6. 最初と最後の頁 40-43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大津美香, 黒坂玲菜, 小渡真央, 中山恵梨, 古舘琉衣, 成田秀貴, 工藤麻理奈	4. 巻 23巻2号
2. 論文標題 身体疾患を有する認知症高齢者の日常生活援助を行う際の介護職員の対応困難 ケアの標準化のための基礎調査	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 地域ケアリング	6. 最初と最後の頁 56-59
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大津美香, 小渡真央, 黒坂玲菜, 中山恵梨, 古舘琉衣, 成田秀貴, 工藤麻理奈	4. 巻 11巻2号
2. 論文標題 介護保険施設の介護職員が認識する身体疾患を有する高齢者の日常生活管理	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 保健科学研究	6. 最初と最後の頁 31-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大津美香, 成田秀貴, 工藤麻理奈	4. 巻 23巻4号
2. 論文標題 高齢者の身体疾患の悪化予防に関する介護職員の知識と日常生活援助の実施状況 - 介護保険施設の種類による比較検討 -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 地域ケアリング	6. 最初と最後の頁 70-74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大津美香	4. 巻 35巻9号
2. 論文標題 看護と介護の協働による認知症高齢者の心不全の疾病・生活管理	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 BiO Clinica	6. 最初と最後の頁 56-58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大津美香	4. 巻 42巻1号
2. 論文標題 認知症のある心不全患者の療養支援	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日総研出版 呼吸・循環・脳実践ケア	6. 最初と最後の頁 72-77
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大津美香	4. 巻 45巻11号
2. 論文標題 看護と介護の協働による認知症高齢者の心不全の疾病・生活管理のためのマニュアル作成	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Medical Science Digest	6. 最初と最後の頁 666-667
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大津美香	4. 巻 8巻2号
2. 論文標題 看護と介護の協働による認知症高齢者の心不全の疾病・生活管理のためのマニュアル内容の検討	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 BIO Clinica	6. 最初と最後の頁 139-141
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大津美香、中村典雄、成田秀貴、九島千瑛、安永知衣里、秋庭千穂、木田涼介	4. 巻 14巻2号
2. 論文標題 認知症高齢者の心不全の悪化予防に向けて看護職員と介護職員が日常生活管理を行うためのマニュアルの有効性の検証	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 保健科学研究	6. 最初と最後の頁 37-44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Haruka Otsu, Hidetaka Narita, Chie Kushima, Chieri Yasunaga, Kengo Takidai, Hinako Osanai	4. 巻 14巻2号
2. 論文標題 Conflicts and coping strategies among nursing and care staff in the daily life management of heart failure in elderly patients with dementia in long-term care facilities in Japan	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Journal of Health Sciences Research	6. 最初と最後の頁 9-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計15件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 大津美香
2. 発表標題 身体疾患をもつ認知症高齢者に対する最も対応困難な日常生活援助内容の検討 介護職員の経験年数との関係から
3. 学会等名 第23回日本認知症ケア学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 大津美香、井上幸香、三上諒弓、中村ひかる、瀬川莉子、三浦美環、成田秀貴、安永知衣里
2. 発表標題 心不全のある認知症高齢者の日常生活管理における介護保険施設の介護職員のストレスの内容
3. 学会等名 第27回日本在宅ケア学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 大津美香
2. 発表標題 認知症高齢者の心不全の日常生活管理における介護保険施設の看護職員のストレスの内容
3. 学会等名 第60回日本医療・病院管理学会学術総会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 成田秀貴、大津美香、三浦美環
2. 発表標題 介護保険施設の看護職員との連携における介護職員の認知症高齢者の心不全の日常生活管理の実践状況
3. 学会等名 第42回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 三浦美環、大津美香、成田秀貴
2. 発表標題 介護保険施設の介護職員との連携における看護職員の認知症高齢者の心不全の日常生活管理の実践状況
3. 学会等名 第42回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 大津美香、成田秀貴、工藤麻理奈
2. 発表標題 身体疾患をもつ認知症高齢者の日常生活援助における介護職員の困難感 - - 認知症ケアの経験年数による違い
3. 学会等名 第22回日本認知症ケア学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 大津美香
2. 発表標題 身体疾患を複数抱える高齢者の日常生活援助を行う際の介護職員の対応困難感と不安 - 介護保険施設の種類による比較検討 -
3. 学会等名 第59回日本医療・病院管理学会学術総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 大津美香、黒坂玲菜、小渡真央、中山恵梨、古館琉衣、成田秀貴
2. 発表標題 介護職員が複数疾患を併せ持つ高齢者の生活援助に際して抱く困難や不安と健康管理のニーズ
3. 学会等名 第58回日本医療・病院管理学会学術総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 大津美香、成田秀貴
2. 発表標題 循環器疾患をもつ施設高齢者の生活援助における介護職員の知識と実施状況の関連
3. 学会等名 第17回日本循環器看護学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Haruka Otsu
2. 発表標題 Examination of contents of manual for disease and life management of heart failure in elderly people with dementia in elderly people's facilities
3. 学会等名 the 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 大津美香、高橋徹、中村典雄、成田秀貴、九島千瑛、山田基矢、安永知衣里
2. 発表標題 心不全のある認知症高齢者の日常生活援助において介護職員が認識した看護職員との葛藤
3. 学会等名 日本老年看護学会第28回学術集会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 大津美香
2. 発表標題 心不全のある認知症高齢者の日常生活援助に際して介護職員との連携において看護職員が認識した葛藤
3. 学会等名 日本看護研究学会 第49回学術集会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 大津美香、成田秀貴、九島千瑛、安永知衣里
2. 発表標題 認知症高齢者の心不全の日常生活管理において看護職員と介護職員の間が生じるコンフリクトと対処方略
3. 学会等名 第20回日本循環器看護学会学術集会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 大津美香
2. 発表標題 介護保険施設における心不全を持つ認知症高齢者の日常生活管理マニュアル使用効果の検討
3. 学会等名 第61回日本医療・病院管理学会学術総会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 大津美香、成田秀貴、九島千瑛、安永知衣里
2. 発表標題 看護と介護の職種間連携による心不全を持つ認知症高齢者の日常生活管理マニュアルの有用性の検討
3. 学会等名 第28回日本在宅ケア学会学術集会
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 大津美香	4. 発行年 2019年
2. 出版社 メディカル・サイエンス・インターナショナル	5. 総ページ数 8
3. 書名 心不全ケア教本第2版	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関